

はじめに

国際防災研修センター（DRLC：Disaster Reduction Learning Center、以下「DRLC」と記載する。）は、JICA と兵庫県が 2007 年 4 月に共同設立して以来、神戸東部新都心（HAT 神戸）を中心に兵庫県内の多彩な防災・国際機関と連携し、幅広い協力と支援のもと、日本、特に阪神・淡路大震災を通じた兵庫県や神戸市の経験・教訓と蓄積された知見を活かして、開発途上国の国づくり人づくりを支える JICA の防災分野研修を総合的に調整、支援する様々な活動を展開している。

国際防災研修センター実行委員会（以下、「実行委員会」と記載する。）は、こうした DRLC の活動を支援し、国際的な防災人材育成に関する調査研究を進める体制整備を行なっている。

本報告書は、国際防災研修センター及び実行委員会の設立から 4 年目となる 2010 年度に実施した具体的な活動内容をまとめたものである。

1. 実行委員会が活動支援を行なう国際防災研修センター（DRLC）について

（1）背景

1995 年に発生した阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）は、近代日本が初めて経験した都市直下型地震であり、兵庫県神戸市を中心に甚大な被害をもたらし、死者約 6,400 人超、被害総額が約 10 兆円に及ぶ未曾有の大災害となった。しかしながら、国内に留まらず広く世界から多くの支援を受けて、被災地域は急速な復旧を実現し、総力を挙げて復興に努め、この経験と教訓を基に現在も防災・減災に重点を置いた社会作りを積極的に推進している。

この大震災から 10 年目の 2005 年 1 月に神戸市で開催された「国連防災世界会議（兵庫会議）」では、その後の世界の防災戦略の指針となる「兵庫宣言／兵庫行動枠組 2005-2015」が採択された。この中で、世界の災害被害軽減に向けて、途上国の災害対応能力を国際的な協力を通じて緊急に強化する必要性、特に災害の予防、被害軽減、備え、脆弱性を軽減することの重要性が強く謳われている。また、この会議で日本政府は、開発途上国に対する開発援助にも防災の視点を積極的に取り込み、日本の国際貢献として、ODA（政府開発援助）を通じた途上国の人づくりや制度構築のための自助努力を支援した防災協力を行う「防災協カイニシアティブ」を提唱し、日本の持つ災害対応に係る豊富な知見を国際協力に一層活用していくことを表明した。

（2）目的

阪神・淡路大震災の復興シンボルプロジェクトとして神戸市東部の臨海地に整備された新都心「HAT 神戸」には、JICA 兵庫のほか WHO 神戸センター・国連地域開発センター・人と防災未来センターやアジア防災センターなどの防災関連、国際交流・国際協力機関が数多く集積している。DRLC は、こうした様々な国際機関、防災関連機関と連携して、防災人材育成の視点から、阪神・淡路大震災などの日本の災害経験と知見に基づく防災技術を広く効果的に世界に発信し、開発途上国の防災力向上に貢献することを目指す。

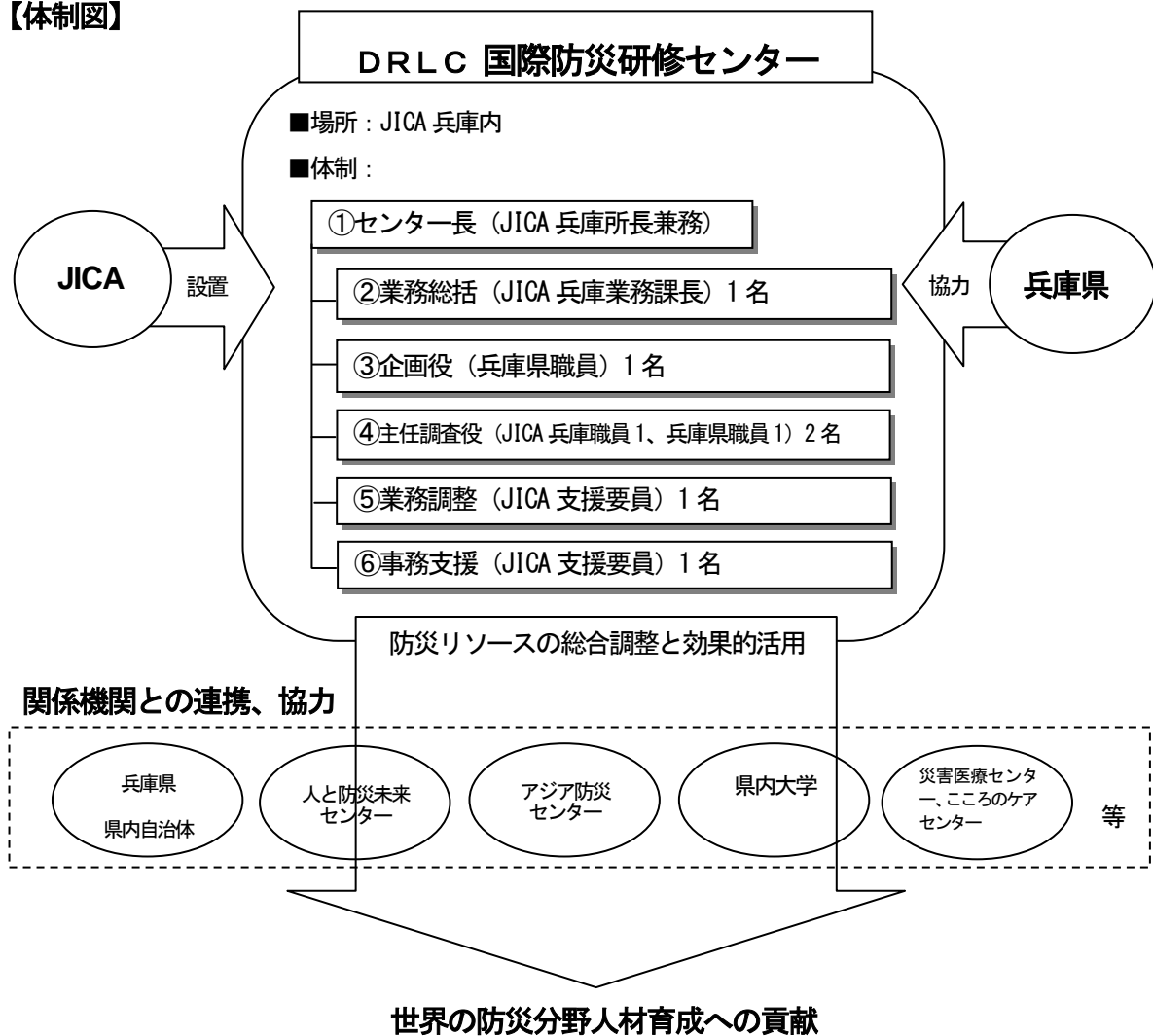
(3) 活動

DRLC は、日本、特に阪神・淡路大震災を通じた兵庫県や神戸市などの経験と教訓、蓄積された知見を活かし、開発途上国の国づくり人づくりを支える JICA の防災分野研修を総合的に調整、支援する拠点として、次の事業を展開している。

- ① 防災分野研修の総合調整
- ② 防災分野研修の効果的实施
- ③ 防災分野研修における人的ネットワークの構築とその有機的な活用
- ④ 防災分野研修のリソースに係るデータベースの整備
- ⑤ 兵庫県の防災知見の国際防災人材開発への活用

(4) 体制

【体制図】



2. 実行委員会の体制について

前項で示した DRLC の活動を支援し、その根幹となる人材育成面において、国際的な防災人材育成に関する調査研究を進める実行委員会の組織体制は次のとおりである。

(1) 構成団体

独立行政法人国際協力機構 (JICA)、JICA 兵庫国際センター (JICA 兵庫)、兵庫県

(2) 委員構成

- ・委員長：JICA 兵庫所長
- ・委員：JICA 兵庫次長、兵庫県企画県民部防災企画局防災企画課長
- ・監事：JICA 国内事業部計画担当次長、兵庫県企画県民部防災企画局防災企画課係長
(・事務局長：DRLC 企画役)

3. 実行委員会の主な活動について (2010 年度)

2010 年度中、実行委員会は「国際的な防災人材育成の効果的実施のための調査研究」として、次の活動を行った。

(1) JICA 兵庫における防災分野研修の機構内調整機能の強化

① 防災分野研修の総合的な調整支援

■ 防災分野研修 JICA 内担当者連絡会議の開催

- 防災分野研修を実施する国内機関等 (東京、筑波、中部、大阪、兵庫、九州) の担当者が一堂に会し防災分野の分野別課題検討会を開催するとともに、防災分野事業及び研修実施に係る情報共有と意見交換を行った。また、参加者は、新長田の視察を実施し、阪神・淡路大震災の被災と復興について新長田の商店街の代表者などから話を伺い、新長田の防災分野リソースの紹介を行った。

- ・実施日：2011 年 1 月 30 日から 31 日まで
- ・参加者数：6 国内機関、JICA 本部 計 13 人

■ 集団・地域別研修の実施

- 集団・地域別研修コース (14 コース) を実施した。(別添 1 参照)
「気候変動適応策水分野における政策策定能力向上」「災害に強いコミュニティ作りに向けたボランティア・マネージメント」は 2010 年度新規コース。

■ 国別研修・有償勘定技術支援の実施

- 集団・地域別研修 (14 コース) 以外に、下記の国別研修・有償勘定技術支援を実施した。

① 国別研修

国名	研修名	時期
中国	応急対応能力強化	10年5/16-20
中国	教育分野におけるこころのケア	10年8/8-17
中国	救急救助技術	10年8/25-29
中国	耐震防災計画	10年8/29-9/18
中国	(災害)精神保健	10年11/29-12/11
タイ	防災教育・洪水対策	10年12/3-11
カリブ	洪水解析／コミュニティ防災監理	11年2/9-19
トルコ	防災教育	11年3/5-19
ハイチ	大地震後復興研修	11年3/6-26
チリ	災害対応能力向上	11年3/13-24

② 有償勘定技術支援

国名	研修名	時期
ベトナム	河川管理	10年7/7-9
中国	四川省震災回復実施能力開発研修	10年7/28-8/7

また、この他 DRLC の職員が講義を行った。下記にハイチとチリの国別研修の例を挙げる。

研修名	講義名	日時
ハイチ「大地震後復興研修」	中央政府の視点からの復興行政	11年3/8
チリ「災害対応能力向上」	日本の災害対策	11年3/15 10:00-12:30
チリ「災害対応能力向上」	東日本大震災における被害状況と 応急対応	11年3/15 14:00-16:30
チリ「災害対応能力向上」	災害復旧・復興段階における諸政策	11年3/17

■ 1.17 連携防災イベントの実施

- 阪神・淡路大震災の発生日である1月17日の時期を捉えて、災害被災の経験や体験を防災対策に活かす「防災文化の継承」を主眼に、阪神・淡路大震災の経験から生まれた防災教育プログラム「イザ！カエルキャラバン！」を核としてHAT神戸の諸機関と連携してJICA防災分野研修員と市民が広く交流し相互に学習する多彩な総合防災イベント「イザ！カエル大キャラバン！in HAT神戸」を開催した。
- ・主催：「イザ！カエル大キャラバン！in HAT神戸実行委員会（JICA兵庫DRLC、NPO法人プラス・アーツ）
 - ・共催：人と防災未来センター、兵庫県立美術館、兵庫県国際交流協会
 - ・実施期間：2010年12月、2011年1月（キャラバン本体は1/30）
 - ・参加者（来訪者）数：約1,800人

(2) 防災分野研修の効果的、効率的実施を促進

① 研修受入先等関係機関との連携強化

■ DRLC 第一期事業活動報告会の実施

➢ DRLC の第一期（2007 年～2009 年）の活動実績を JICA 兵庫近郊の防災関係者に幅広く報告するとともに、質疑応答・意見交換を行い、第二期（2010 年～2012 年）の活動計画の参考とした。

・実施日：2010 年 4 月 26 日

・参加者数：兵庫県外県内の国際機関・防災機関
計 22 機関（34 人）

■ 関係機関との連携強化

➢ 防災分野研修のみならず DRLC 事業全般で県内防災関係・国際機関と連携している。また関係機関に対しては、下記の具体的な事業連携・支援を行なった。

内容	時期	支援・連携機関等
兵庫県特別研修「ボランティアカレッジ」のプログラム「JICA の取り組む防災協力～JICA と兵庫県から～」講義	10 年 9/3	兵庫県職員会館 職員ふれあいセンター
INSARAG（国際捜索・救助諮問グループ）世界会合 2010 への参画（ブース出展）	10 年 9/14-16	国際緊急援助隊事務局
「神戸大学都市安全研究センター災害復興報告会」後援	10 年 11/13	神戸大学都市安全研究センター、清華大学都市計画設計 研究院公共安全研究所
「インドネシアにおける地震・火山総合防災プロジェクト」国際ワークショップの実施	10 年 11/22-25	地球規模課題対応国際科学 技術協力事業「インドネシア における地震火山の総合 防災策」研究グループ
多言語災害情報発信セミナーの開催	10 年 12/8, 9, 16, 22	(株) ラジオ関西、(株) エフエム わいわい、多言語センター FACIL
「国際復興フォーラム 2011～よりよい復興に向けた事前復興計画～」後援	11 年 1/12	IRP 事務局、外務省、国際防災・ 人道支援協議会 (DRA)、NHK
「第 2 回防災・社会貢献ディベート大会」後援	11 年 2/19	神戸学院大学 TKK 学び合い連携 センター 同 大会実行委員会
神戸大学主催連携融合事業全体メンバー会議へ コアメンバーとして参画	随時	神戸大学都市安全研究センター

② 新たな研修教材の開発、作成及び活用

■ 「Handbook for the utilization of DMAM for Community Based Disaster Management」の作成・活用

➢ 2007 年度に世界コミュニティラジオ放送連盟 (AMARC) 日本協議会（事務局：神戸市長田区コミュニティラジオ局「FM わいわい」）と共同で開発した研修教材、

多言語災害情報音声素材集「DMAM (Disaster Management Audio Materials for Community Radio Broadcasting)」を地域コミュニティの防災活動に具体的に活用するパイロット事業をインドネシア国ジョグジャカルタ（2006年ジャワ島中部地震被災地）にて実施した成果をもとに DMAM 活用手法を紹介するハンドブック「Handbook for the utilization of DMAM for Community Based Disaster Management」を作成し、研修教材として活用した。

■ **兵庫県災害対策センターのパンフレット（英語版）の作成**

➢ 兵庫県防災企画局の協力を得て、兵庫県の災害対策活動の中核拠点である兵庫県災害対策センターのパンフレットの英語版を作成し、防災分野研修員に配布した。

■ **フェニックス防災システムのパンフレット（英語版）の作成**

➢ 兵庫県災害対策局の協力を得て、兵庫県災害対応情報ネットワークシステムであるフェニックス防災システムのパンフレットの英語版を作成し、防災分野研修員に配布した。

■ **DRLC 作成研修教材のさらなる活用と対応**

➢ DRLC が作成した研修教材が各関係者において広く活用されたことから、下記の教材については増刷などによる対応を行った。

- ・ 阪神・淡路大震災教訓集スペイン語版
- ・ DMAM 及び DMAM テキストブック
- ・ BOKOMI Guidebook

■ **参加型学習教材「被災地復興シミュレーション 納得するまちづくり」の活用**

➢ 2008年度に神戸学院大学防災・社会貢献ユニットと共同開発したロールプレイ手法を用いた体験型学習教材「被災地復興シミュレーション 納得するまちづくり」の活用の一環として、2010年度「自然災害からの復興計画」コースの研修員に対しワークショップを実施した。

③ **国内防災リソースの調査実施**

➢ 阪神・淡路大震災関連の研修リソースのみならず、兵庫での防災研修リソースを補完する国内防災リソースの調査を以下のとおり実施した。

内容	時期
中央省庁等における防災対策の調査	10年7/20-22
徳島県における砂防・地滑り対策に係る調査	10年8/2-3
東京工業大学等における防災対策の調査	10年10/20-22
筑波の防災機関における防災対策の調査	11年2/7-8
中央省庁との JICA 研修における協議	11年2/13-14

④ **防災分野研修共通プログラムの開設と運営**

➢ 防災分野の全研修コース（集団・地域別研修）を対象に、兵庫で防災を学ぶ視点から阪神・淡路大震災とこれをベースとした兵庫県・神戸市の防災を学ぶ「共通プログラム」を、以下のとおり各研修カリキュラムの冒頭に組み入れて開設（2日間、講義2、視察1）した。

<共通プログラム内容>

	講義・内容	単位(日)	講師
講座1	防災行政の組織体制・制度としくみ	0.5	兵庫県防災企画局／(財)神戸都市問題研究所
講座2	防災教育	0.5	兵庫県教育委員会／神戸市教育委員会
講座3	人と防災未来センター視察	0.5	人と防災未来センター

⑤ JICA ボランティア事業（青年海外協力隊派遣）連携プログラムの実施

- 防災分野の青年海外協力隊員に対する兵庫の防災リソースを活用した派遣前技術補完研修プログラムを次のとおり実施した。

実施時期	研修実施者
10年5/24-28	22年度2次隊・3次隊（10年9月） ベトナム・トンガ・パナマ派遣予定者（村落開発普及員・防災）4人

(3) 防災分野研修修了者及び所属組織並びに日本側リソースとのネットワーク構築促進

① 帰国研修員の現地活動支援及びネットワーク形成の促進

■ グアテマラ国・エルサルバドル国防災分野帰国研修員支援事業

- JICA中米広域防災能力向上プロジェクト（BOSAI）と連携し、日本（兵庫県・神戸市）の経験から生まれた防災教育ツールをきっかけに、グアテマラ国・エルサルバドル国における持続可能な防災教育ツールの案が提案されることを目的として、中米広域防災能力向上プロジェクト（BOSAI）を対象にワークショップを実施した。

・実施期間：2010年7月5日（月）から22日（木）

・場 所：グアテマラ国 グアテマラシティ

エルサルバドル国 サンサルバドル、サラゴサ市、サン・ルイス・タルパ市

・ワークショップ参加者：中米広域防災能力向上（BOSAI）プロジェクトの専門家・カウンターパート・青年海外協力隊員、グアテマラ・エルサルバドルにおける帰国研修員、防災関係者等

■ 集団研修「都市地震災害軽減のための総合戦略」帰国研修員支援事業の実施（JICAソフト型フォローアップ事業）

- 神戸大学都市安全研究センターと協力して、本コース受講終了者（帰国研修員）から選考した13人を日本に招聘し、帰国後の活動（好事例）や活動計画（アクションプラン）の進捗状況を2010年度研修員9人と共有し、研修の相乗効果を図ることを目的にフォローアップを実施した。パネル討論のセッションでは、総勢22人の研修員がアジア／中東・北アフリカ／中南米の3グループに分かれて討論を行い、各地域での今後1年間の活動計画（アクションプラン）を作成した。

・実施期間：2010年11月1日（月）から3日（水）

・参加帰国研修員数：12か国13人

（中国、フィリピン(2)、インドネシア、パキスタン、イラン、トルコ、シリア、アルジェリア、リビア、ペルー、ベネチア、コロンビア）

② DRLC ウェブサイトの運営・改良

- 帰国研修員に対しメールマガジン配信を開始し、DRLC ウェブサイトの記事を紹介する等により、ウェブサイトの有効活用に努めた。また、帰国研修員間で更なるウェブサイトの活用を図り帰国後の好事例を共有できるようにするため、掲示板からの写真や資料の投稿機能の追加など、ウェブサイトの改良を行った。

公開サイトでは「Handbook for the utilization of DMAM for Community Based Disaster Management」等の研修教材を掲載し、研修員のみならず全ての訪問者が利用できる阪神・淡路大震災関連資料等を充実させるとともに、研修員限定のサイトでは、共通プログラムの講義資料、直営実施プログラムの講義資料、研修員の視察先での活動などを掲載し、帰国後のウェブサイトの活用を促した。

□ ウェブサイト・アドレス：<http://www.drlc.jp>

□ 公開サイトで利用可能な阪神・淡路大震災関連資料等

ひょうごの防災－災害文化が支える減災社会の実現－ (日本語、英語、スペイン語、中国語、ロシア語)
兵庫県災害対策センターパンフレット (英語)
フェニックス防災システムパンフレット (英語)
阪神・淡路大震災教訓集 (日本語、英語、スペイン語、ロシア語)
BOKOMI Guidebook (英語)
災害情報音声素材集 (英語) 「DMAM (Disaster Management Audio Materials for Community Radio Broadcasting)」
Handbook for the utilization of DMAM for Community Based Disaster Management (英語)

(4) 防災分野の国内リソースに係るデータベース整備の促進

① 帰国研修員データベースの整備・活用

- 今年度の課題別・国別研修員 223 人をデータベースに登録し、登録者は計 1,018 人となった。これまでに整備したデータベースは、帰国研修員支援事業における帰国研修員選定等で活用した。

また、データベース上のメールアドレスを活用し、帰国研修員に対してメールマガジン配信機能を開始した。

② 研修リソースデータベースの整備・活用

- 2009 年度に整備したリソースデータベースについて現在、61 名を登録しており。利便性の向上を図るため、新たに氏名検索機能を追加した。

また、リソースデータベース登録者についても、メール配信機能を開始し、DRLC で新たに開発した研修教材等の紹介を行った。

(5) 兵庫県の防災知見の国際防災人材開発への活用促進

① 技術協力プロジェクト等において、兵庫県内の有識者を専門家等として紹介

■ ハイチ復興支援

・第 4 回ハイチ地震復興支援研究会の実施

- 2010 年 1 月 12 日に発生したハイチ地震後の復旧・復興支援に向けて、2009

年度（第1～3回）に引き続いて、ハイチ復興支援研究会を実施した。4回に渡る研究会の成果として、兵庫から発信する国別研修を今後企画（ニーズ調査を目的とした関係者による7月頃のハイチ訪問を含む）実施することで関係者の合意を得た。

・開催日：2010年5月12日（水）

・場所：JICA兵庫

・参集者：兵庫県、JICA本部外県内の国際機関・防災機関 計7機関26人

・ハイチ国別研修事前調査団の派遣

➢ ハイチ政府・NGO関係者との意見交換や現場視察を通じて、復興過程にあるハイチの現状を踏まえた上で、兵庫県内に蓄積されている阪神・淡路大震災からの復興で得られた経験・教訓を活用した研修を形成することを目的に、「ハイチ国別研修事前調査団」を派遣した。

・実施期間：2010年7月24日（土）から8月2日（月）

・場 所：ハイチ、ドミニカ共和国

・ハイチ国別研修実施におけるIRPとの連携可能性に係る業務出張

➢ ハイチ向け国別研修におけるIRPとの連携についてIRP運営委員会の議論を確認した。また、IRP事務局が設定するIRP議長国（世界銀行）及び副議長国（日本政府：内閣府）関係者にハイチ国別研修に係る背景と今後の方向性について説明した。

・実施期間：2010年10月4日（月）から8日（金）

・場 所：アメリカ合衆国 ワシントン特別連邦区 メイフラワーホテル・世界銀行

・ハイチ国別研修「大地震復興研修」の実施、14人受入

■ チリ地震復興支援

・チリ地震復興支援調査報告会の実施

➢ 2010年2月27日に発生したチリ地震後の復旧・復興支援に向けて、現地を調査した専門家からの報告と今後の支援についての意見交換を行った。

・開催日：2010年4月9日（金）

・場所：JICA兵庫

・参集者：兵庫県、JICA本部外県内の国際機関・防災機関
13機関計35人

・チリ国別研修の実施

・地域別研修「コミュニティ防災」への上乗せ

■ 四川大地震支援事業への協力・支援

・「こころのケア人材育成プロジェクト」の実施支援

➢ 四川地震復興支援に関してJICAが2009年6月から5カ年計画で実施する「こころのケア人材育成プロジェクト」の具体活動に際して兵庫の防災リソースの調整等により実施支援を行なった。

支援活動	実施期間	内容
運営指導調査報告会（TV 会議）実施支援・参加	10 年 4/14	・10 年 3 月に実施した調査結果の報告と今後の活動に関する意見交換会の調整
ひょうご講座 2010 災害事件後の心のケア（Hem21 主催）講師派遣に関する側面支援	10 年 6/4	・藤本前 JICA 中国事務所次長（現人事部審議役）の講師派遣に関する調整
第 4 回国別研修「教育分野におけるこころのケア」研修員受入	10 年 8/8-17	・中国側関係者 23 人の受入れ
第 3 回現地セミナーへの短期専門家派遣調整	10 年 9/17-22	・兵庫県内の有識者 7 人を派遣
プロジェクト活動検討会（TV 会議）実施支援・参加	10 年 11/2	・今後の活動に関する意見交換会の調整
第 5 回本邦研修「(災害) 精神保健」研修員の受入れ	10 年 11/29-12/11	・中国側関係者 22 人受入
第 4 回現地セミナーへの短期専門家派遣調整	11 年 1/5-10	・兵庫県内の有識者 7 人を派遣

・「耐震建築人材育成プロジェクト」の実施支援

- 四川地震復興支援に関して JICA が 2009 年 6 月から 3 カ年計画で実施する技術協力プロジェクト「耐震建築人材育成プロジェクト」の国別研修に中国関係者 22 人を受け入れ、さらに、集団研修「都市地震災害軽減のための総合戦略」及び地域別研修「災害に強い学校～コミュニティへの耐震建築の普及に向けて」に 5 人の上乘せを行なった。

■ 草の根技術協力事業への支援

- 地域提案型「スリランカ国における持続可能なトラウマ・カウンセリングと融合した防災教育活動推進プロジェクト」事業実施のための調整支援を行った。

② 他の防災関係機関との連携

■ 自主防災組織育成事業（於：インドネシア）

- 神戸市消防局、NPO 法人プラス・アーツが、地震や火山の噴火が相次ぐインドネシア国ジョグジャカルタで設立をすすめる自主防災組織（防コミ）の育成活動を支援した。12 月 26 日（日）に開催された防コミ設立式には、DRLC から職員 1 人が参加した。

・実施期間：2010 年 12 月 24 日（金）から 28 日（火）

・場 所：インドネシア国ジョグジャカルタ、バットラン地区

■ インドネシア復興ワークショップの実施

- 阪神・淡路大震災の教訓から生まれた神戸発祥の自主防災組織である「防災福祉コミュニティ（防コミ）」をインドネシアで設立し、同じく神戸で生まれた防災教育イベント「イザ！カエルキャラバン！」を普及させた防災の専門家を研修講師として招へいし、防災分野研修 3 コース合同でワークショップを実施した。

・実施時期：2011 年 1 月 23 日（日）

・招へい講師：インドネシア・ガジャマダ大学イカプトラ准教授

- ・ 講義内容：インドネシアでの防コミ設立及び防災教育イベント普及事業についての取組み
- ・ 参加研修員：総合防災行政コース 18人、コミュニティ防災コース 14人
アジア地域防災文化の普及と定着コース 6人 計38人

■ 四川大地震復興にかかる清華大学との共同調査

➢ 防災教育面における地方レベル（兵庫県と四川省）での今後の交流・連携の可能性について探るため、中国の清華大学公共安全研究センターと共同で、四川大地震後の防災教育の現状について調査を実施するとともに、関係機関に対して、DRLCの活動や防災教育教材（「防コミガイドブック」「ビジュアル版幸せ運ぼう」）の紹介を行った。

・ 実施期間：2011年2月21日（月）から26日（金）

・ 場 所：中国・四川省（成都市・汶川県・北川県・都江堰市・綿竹市）
及び上海市

■ インドネシア副大統領一行の受入並びにDRLC防災関連事業の紹介

➢ インドネシアのプディオノ副大統領及び防災関係者・関係閣僚一行が兵庫における防災の取組みを学ぶため、APEC会議の帰路来県した。これについては、人と防災未来センターの視察を交えて、伊禮センター長を含むDRLC職員が対応し、DRLC事業についてプレゼンを行うとともに、JICAにおける防災研修の具体例を紹介した。

・ 実施時期：2010年11月16日（火）

■ ハイチ教育分野大統領審議委員会委員長他一行の県内受入並びに意見交換

➢ ハイチ教育分野大統領審議委員会ジャッキー・ルマルク委員長、IDB川端社会セクター局長ほかがJICA兵庫を訪問した際、県、市の防災教育関係者との会談を実施した。これはその後2011年3月に実施されるハイチ国別研修に先立ち、防災教育における課題について県内関係者と議論を交わすとともに、研修カリキュラムを具体化させるため行ったものである。

・ 実施時期：2010年12月3日（金）

③ DRLCの広報活動

■ DRLCパンフレット（日本語版・英語版・スペイン語版）の改訂・増刷

➢ DRLCの活動を広く広報するため、2007年度に作成したパンフレットをリニューアルして増刷し、防災分野関係者に広く配布した。

■ DRLCノベルティグッズの作成

➢ DRLCの活動を広く広報するため、ノベルティグッズ（DRLCのウェブサイトアドレスが入ったボールペン）を作成し、JICA防災分修員のみならず、広く防災分野関係機関に配布した。